

サービスが受けられない！介護現場の問題解決は、喫緊の課題

今年4月から介護保険料が基準月額で440円引上げ！増える滞納

介護保険料は、3年ごとの事業見直しのたびに引上げられています。今年4月から、基準月額で440円引上げとなりました。

(H24～26) → (H27～29)
5,260円 → 5,700円

しかも、現時点の予測で将来の保険料はさらに引き上げの見通しです。

(H30～32年度) 月額6,740円

(H33～35年度) 月額7,980円

年金が毎年減らされる中で、保険料がどんどん上がり、年金から否応なく差し引かれれば、高齢者の暮らしはますます厳しくなります。

一方、年金月額15,000円以下の人をはじめ、普通徴収となっている人の滞納は増え続けて、昨年度で6,000人を超えました。

介護保険料の滞納は、サービスの給付制限の対象となります。

【介護保険料滞納者数】

(年度)	(人)
H22年度	3,526
H23年度	4,048
H24年度	5,766
H25年度	5,945
H26年度	6,020

特養ホーム待機者2,000人、ますます狭くなる「施設介護」利用の門

特別養護老人ホームの待機者は、昨年度2,072人でした。各施設数十人から数百人の待機者がいる状態です。全国の待機者は、2013年10月の厚生労働省発表で52万人でした。

2015年の介護保険法改悪で、今後、特別養護老人ホームの入所要件が「介護度3以上」に引き上げられるので、施設介護利用の門はますます狭くなります。熊本市の場合、待機者のうち約500人が施設介護から締め出されます。(4人に1人)

【介護度別の特養待機者数】

要介護1	178
要介護2	311
要介護3	443
要介護4	557
要介護5	583
合計	2,072

要介護1・要介護2を合わせて489人が、特養を利用できなくなります。

増え続ける介護事業所の閉鎖……サービスが利用できなくなる

介護報酬引き下げによって、介護サービスを提供している事業者が成り立たない状況が生まれています。廃止事業所は年々増えています。

事業所廃止は、利用者へのサービス提供に影響してきます。このままいけば、利用者が必要なサービスを受けられません。

【事業所廃止件数の年次推移】

*主なもの

	居宅介護支援	訪問介護	訪問看護	居宅療養管理指導	通所介護	福祉用具貸与	福祉用具販売	認知デイ	小規模多機能
H22	7	3	3		3	2	1	1	
H23	4	8	1		8	6	5	1	
H24	9	5	2		8	2	4	2	
H25	6	4	2		7	4	4		2
H26	8	13	2	7	8	3	4	2	3
計	34	33	10	7	34	17	18	6	5

保険料滞納によるペナルティで、介護サービスが利用できない

保険料滞納による介護サービスの給付制限対象者も増え続けています。

【ペナルティによる給付制限対象者数の年次推移】

(年度)	償還払い(人)	給付減額(人)
H22年度	93	74
H23年度	96	84
H24年度	102	78
H25年度	120	76
H26年度	119	86



日本共産党 市議会だより

発行：日本共産党熊本市議団

上野みえこ なすまどか 山部洋史

熊本市中央区手取本町1-1 議会棟

NO. 971

2015年11月号

電話 328-2656

FAX 359-5047

メール：kumamsu@gamma.ocn.ne.jp

ホーム：http://www.jcp-kumamoto.com/



現地調査から見えてきた…

立野ダム建設は中止し、河川改修の抜本的推進を！



■現地調査のようす。ダム建設予定地、北向山原生林をのぞむ。

さる10月4日、「立野ダム予定地現地調査」が行われました（立野ダムによらない自然と生活を守る会、ダムによらない治水・利水を考える県議の会、立野ダムによらない白川の治水を考える熊本市

議の会：共催）。今回は建設予定地の立野峡谷ならびに、黒川遊水地群の現地調査となりました。調査で、河川改修が進み自然破壊のダムは必要ないということが、改めて浮き彫りになっています。

■世界ジオパークが取り消しに？！

阿蘇は、その雄大な自然と景観で、地球上の重要な地質遺産に与えられる「世界ジオパーク」に認定されています。

ダム建設予定地の立野峡谷は、ジオパークの見どころであるジオサイトに指定されています。

ダム建設により、貴重な柱状節理や国立公園特別保護地区の北向山原生林が破壊されてしまえば、四年に一回実施される審査でジオパーク認定が取り消されかねません。



■立野ダム、仮排水路工事。トンネルが対岸まで貫通。



■柱状節理が織りなす、自然の造形美。

■自然を壊すダムはいらない

現在工事は、仮排水路工事が着工、トンネルが対岸まで貫通している状況です。しかし、白紙撤回された川辺川ダム計画は、この段階で中止にいたりました。立野ダムも今からでも中止は可能です。

今回の調査でも、柱状節理が織りなす自然の造形美に、参加者からは感嘆とともに「自然を壊すダムはいらない」の声が多くあがりました。

■小倉遊水池

阿蘇・内牧の少し上流の小倉遊水地（工事中）は、「地役権」を導入した遊水地で、普段は農地として活用し、洪水の時に遊水地となります。

農家にとっても、先祖から引き継いだ優良な農地を失うことなく、用地費の大幅な縮減にもつながる、とてもよい治水対策です。

この遊水池には、毎秒140トンもの洪水調節能力があり、これは立野ダムの洪水調節能力（毎秒200トン）



■小倉遊水池。毎秒140トンもの洪水調節能力をもつ。



■内牧の河川改修工事。鋼矢板（連続した鉄骨）堤防上端まで打ち込む。

に匹敵します。このような遊水池を整備していけば、ダムを作る必要はありません。

■白川中流域でも河川整備計画を

阿蘇黒川でこうした河川整備がなされる一方、白川中流域の菊陽・大津地域では「治水効果がない」とダム以外の治水対策が行われてきませんでした。

中流域でも河川整備計画を作り、遊水池や堤防のかさ上げ、河床掘削、川幅拡幅などを行うべきです。